

京都美術工芸大学 大学院

シラバス [2026 年度版]

教 育 課 程 等 の 概 要

(建築学研究科建築学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習
芸 術 科 目	インテリアデザイン特論	1後		2		○		
	工芸とデザイン	1後		2		○	○	
	美術工芸特論	2前		2		○		
	都市環境と芸術	2前		2		○		
	小計（4科目）	—	0	8	0			
専 門 特 論 科 目	伝統建築特論Ⅰ	1前	2			○		
	伝統建築特論Ⅱ	1前	2			○		
	建築計画特論Ⅰ	1前	2			○		
	建築計画特論Ⅱ	1前	2			○		
	建築設計特論Ⅰ	1前		2		○		
	建築設計特論Ⅱ	1後		2		○		
	小計（6科目）	—	8	4	0			
専 門 研 究 科 目	建築デザイン特別演習Ⅰ	1前		6			○	
	建築デザイン特別演習Ⅱ	1後		6			○	
	建築企画論	1後		2		○	○	
	西洋都市建築デザイン論	1後		2		○		
	日本都市史	1前		2		○		
	居住空間論	1後		2		○		
	建築学特別研究Ⅰ	2前	6				○	
	建築学特別研究Ⅱ	2後	6				○	
	小計（6科目）	—	12	20	0			
合計（16科目）		—	20	32	0			
学位又は称号		修士（建築）	学位又は学科の分野			美術関係		
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法					授業期間等			
芸術科目から4単位以上、専門特論科目からは必修8単位、専門研究 科目からは必修12単位、選択6単位以上、計30単位以上取得および修 士研究（修士論文又は修士設計）の提出					1 学年の学期区分		2学期	
					1 学期の授業期間		15週	
					1 時限の授業時間		90分	

授 業 科 目 の 概 要

(建築学研究科建築学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
芸術科目	インテリアデザイン 特論	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では様々な観点から空間における考え方を論じ、また日常生活や史実への考察を通じて実践的な制作活動につながる内容を紹介する。また建築家やインテリアデザイナーに関しての重要な作品や考え方を紹介する。特に家具について簡単なモデルを制作することで実習を取り入れ理解を高める。
	工芸とデザイン	本授業では、まず京都における工芸の潮流に着目し、その歴史的背景と基礎的知識を習得する。次いで、実空間における体験と素材の観察を通して、心理と素材（色彩・光の陰影等）との関係およびその活用手法を整理・分析する。これらを踏まえ、工芸を建築的視点から批評的に評価する力を養う。
	美術工芸特論	本講義では、おもに日本の「近代」という時代を対象として、その過程のなかで形成されてきた「美術」「工芸」といった領域とその展開について解説する。
	都市環境と芸術	2026年度 不開講
専門特論科目	伝統建築特論Ⅰ	建築設計に必要とされる素養のひとつである歴史的建造物を取り上げる。講義や論文講読などを通して、古代から近代にかけての代表的な様式の変遷やその代表的遺構、工法、素材、意匠の特徴などに関する知識を習得する。建築史も歴史学の一環であるため、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築を様々な面（思想、価値観、社会制度、工法、材料、施工等）から捉えて、伝統建築における高度な理論の構築を目指す。
	伝統建築特論Ⅱ	人口減少社会において、既存市街地のストックをベースとした建築・住まい・まちづくりが求められている。歴史都市においては現行の近代的な法律や社会制度と歴史的市街地の建築ストックとの間の矛盾がしばしば存在する。一方で、その都市ならではの歴史的な環境を保全継承することの重要性もますます高まっている。本授業では、京都の歴史的市街地の特徴的存在である京町家および細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。授業時間内にフィールドワークおよび発表を行う。
	建築計画特論Ⅰ	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。伝統建築と現代建築の共存・融合を考慮して、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。講義で教授した内容を踏まえ各自が選定した事例を基に調査分析を行い、授業中の発表を通じて、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、高度な建築計画の能力を養う。 [建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等]
	建築計画特論Ⅱ	住居、居住空間はあらゆる建築の原点である。本講義では、こうした認識を基本として、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの建築・居住空間の構成原理を示し、併せて、建築・居住空間の現代的再編・再生を目的とした建築・住居の計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について、担当教員がこれまで行ってきた国内外の研究蓄積を最大限活用して具体的に講述する。これらを踏まえて、受講生は、学習内容に自らの問題意識を重ねた研究発表を行い、受講生相互の意見交換を行う。
	建築設計特論Ⅰ	変化する社会にしなやかに適合すると共に、高度な専門知識と豊かな教養を発揮し、現実の課題を解決していく実践力を身に付けるための知識、技術・技能を理論的に理解することを到達目標とする。前半は主に建築空間を内部空間だけではなく外部空間から捉えながら、特に歴史的な視点に基づいて講義を展開する。後半は前半の内容を理解したうえで、現代の課題や未来のありようを見据えながら思考を深化させる。講義はスライドを使用して行い、グループワークスルームを利用して配布資料や案内など受講生とのやり取りを行う。
	建築設計特論Ⅱ	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半は、建築設計の実務の流れに沿って基本計画、基本設計、実施設計等を具体的なプロジェクト・事例をもとに解説する。後半は、いくつかの今日的な建築事例をとりあげ、そこに含まれる課題について考察を行う。（授業内での議論、見学、レポート提出も想定）

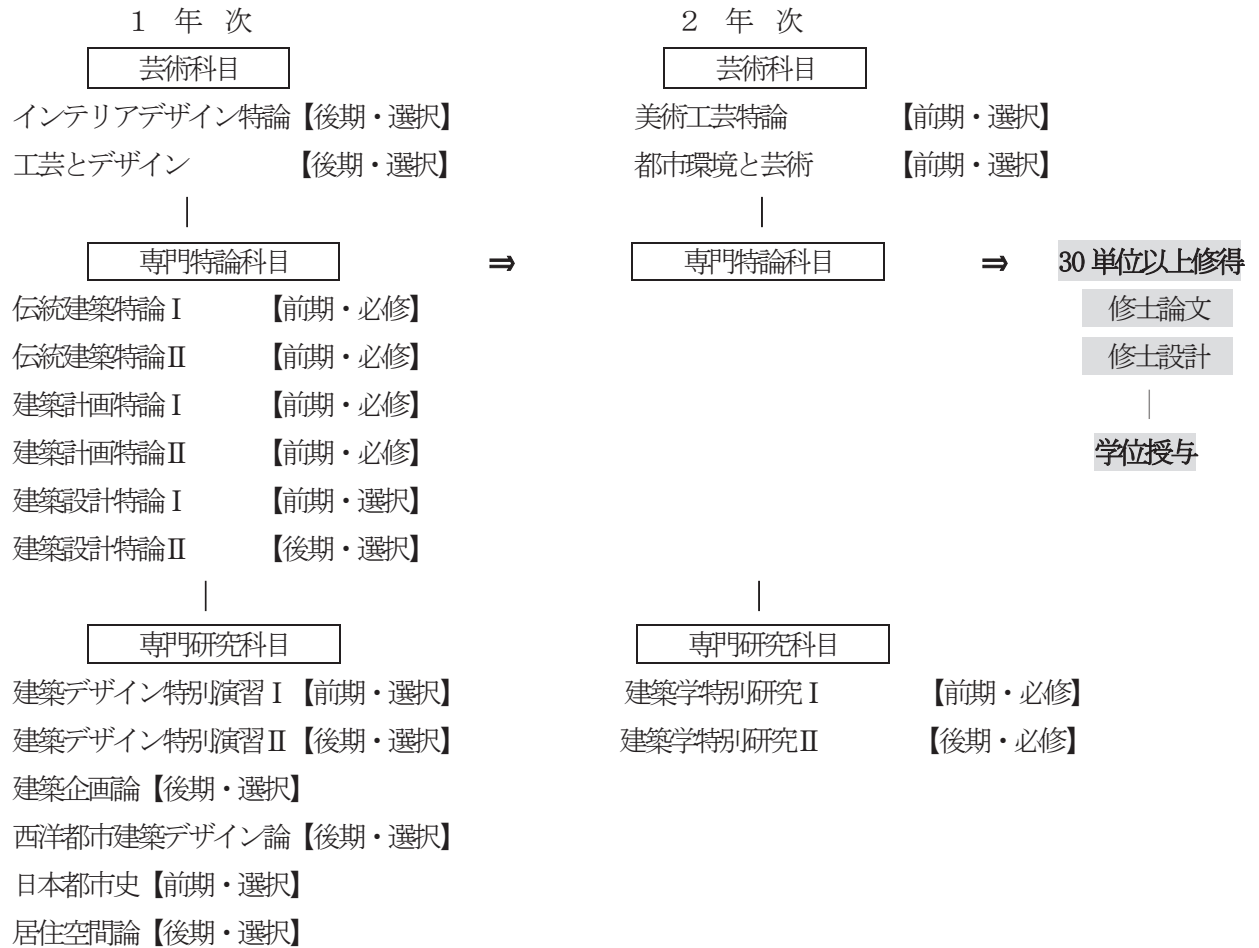
授 業 科 目 の 概 要

(建築学研究科建築学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門研究科目	建築デザイン特別演習 I	建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザインカについて、より高度な知識とデザインカを養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築デザインの持つ創作的な視界について思考を深めていく。 本演習は大学院所属の教員が各々課題を提示して選択する方式とする。
	建築デザイン特別演習 II	都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザインカについて、より高度な知識とデザインカを養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築デザインの持つ創作的な視界について思考を深めていく。 本演習は大学院所属の教員が各々課題を提示して選択する方式とする。
	建築企画論	減少の一途を辿っている京町家を背景に、その生活文化も含めた継承とその現代的価値の重要性を学ぶ建築企画特別演習とする。とくに課題となる大型京町家の保全と活用をテーマに、建築基準法や関連政策、金融、税制との関わりを理解しつつ、持続可能な運営を可能とする体制や仕組みづくりを検討する。実際の大型町家である七条仏所跡を対象にフィールドワークと調査を行い、多様なステークホルダーとの協働を想定した具体的な企画提案を作成する。また、その一部を「町家の日」において公開・実践し、社会への発信を通じて企画の妥当性や運営上の課題を検証する。これらのプロセスを通じ、歴史的建築ストックを活かした地域再生や文化継承に主体的に関わるための実践的な企画力とマネジメント能力を養う。
	西洋都市建築デザイン論	ヨーロッパを中心に様々な時代の都市と建築を例に取り、両者の関係性について論考する。世界の素晴らしい建築物は美しい都市とともに存在し、両者は互いに高め合う関係にある。古代では都市計画と建築、中世では有機的な都市景観と建築について論じ、都市の変遷と建築の関係性を捉える。さらに、歴史的都市における近代現代建築のあり方や近代の都市計画と建築について論考を深める。異なる時代の建築と都市について横断的に認識を深め、伝統建築と現代建築の共存・融合のデザイン、異なる時代の建築による都市のデザインについて論じる。
	日本都市史	本授業は主に次の内容になる。 ・建築学ならびに社会学・人類学・地理学の交差点として蓄積されてきた都市史の「問い」の射程を学ぶ。 ・各回授業は都市の歴史をめぐる15の「問い」に沿って展開する。 ・各回ではテーマに沿った都市を問う理論書を紹介する。 ・具体的な素材としては京都、大坂、江戸を対象に「3都論」として論じる。また地方都市、集落を適宜取り上げその多様性についても論じる。複数の都市史的「問い」を適用しながら、 ・授業では講義とは別に、自ら興味ある土地を一つ設定し、史料を読み解きながら、土地の歴史のストーリー作成を試みる（「都市史レポート」の作成）。
	居住空間論	居住空間に関する設計が上手くなるための考え方を考える授業である。住宅の設計は、建築の基本でありながら、多様性に富み、奥が深い。本講義は単体としての住居をはじめ、職住一体、集まって住む、子ども・高齢者・福祉施設をも対象としている。これら空間の設計に対し、多角的な切り口からのアプローチを試みる。豊富な実例を用いた分析・考察によって講義は展開する。その結果として、学生自身の思考力を刺激し、柔軟な発想力を培う。学部時代に習得したことを発展させ、思考のリアリティをより深める機会としてほしい。
	建築学特別研究 I	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員及び副指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。なお、修士研究の可否判定は、あらかじめ定められた指導教員以外の教員が主査を務め、副査2名との協議により行われる。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。
	建築学特別研究 II	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員及び副指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。なお、修士研究の可否判定は、あらかじめ定められた指導教員以外の教員が主査を務め、副査2名との協議により行われる。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。

建築学研究科建築学専攻履修モデル

【建築学研究科建築学専攻】



《シラバス 目次》

- 1 インテリアデザイン特論
- 2 工芸とデザイン
- 3 美術工芸特論
- 4 伝統建築特論Ⅰ
- 5 伝統建築特論Ⅱ
- 6 建築計画特論Ⅰ
- 7 建築計画特論Ⅱ
- 8 建築設計特論Ⅰ
- 9 建築設計特論Ⅱ
- 10 建築デザイン特別演習Ⅰ
- 11 建築デザイン特別演習Ⅱ
- 12 建築企画論
- 13 西洋都市建築デザイン論
- 14 日本都市史
- 15 居住空間論
- 16 建築学特別研究Ⅰ
- 17 建築学特別研究Ⅱ

科目名	インテリアデザイン特論	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Interior Design , Adv.	科目区分	芸術科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	小椋 吉隆(特任教授)		
到達目標	インテリアデザインに関する知見（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を深く吸収し、魅力的かつ適切な空間デザインを行うための知識と技術の習得と応用力への発展を目的とする。 この科目はDPM-3に該当する。		
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では様々な観点から空間における考え方を論じ、また日常生活や史実への考察を通じて実践的な制作活動につながる内容を紹介する。また建築家やインテリアデザイナーに関しての重要な作品や考え方を紹介する。特に家具について簡単なモデルを制作することで実習を取り入れ理解を高める。		
授業計画 授業内容	全15回 〈インテリア計画〉 第1回 インテリアデザインとは、日本の住まいとインテリアの変遷、教員作品紹介 第2回 西洋のインテリアと家具様式の変遷、戦後のデザインの流れ 第3回 形・色・テクスチャーの心理、人間的尺度と空間の心理 第4回 材料と仕上げ、インテリアの構法 第5回 人間工学の意味と人体寸法、人間工学の応用、インテリアの安全性 第6回 家具、テキスタイル、照明、グリーン・アート 〈プライベート空間〉 第7回 住空間計画、コミュニケーション計画、収納方式と収納空間 第8回 子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間、サニタリー空間 〈パブリック空間〉 第9回 オフィス空間 第10回 ホスピタリティー空間（ホテル、料飲） 第11回 コマーシャル空間 第12回 アプローチ、地下、乗り物他 〈モデル制作〉 第13回 モデル制作（椅子模型または図面） 第14回 モデル制作（椅子模型または図面） 第15回 プレゼンテーション、レポート ※状況に応じて変更する場合があります。		
教科書	インテリアデザイン教科書 第二版 /彰国社 /インテリアデザイン教科書研究会 編著 その他適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子 著 20世紀の椅子たち 椅子をめぐる近代デザイン史 / 彰国社 /山内陸平 著		
予習・復習指導	参考書「図解テキスト「インテリアデザイン」」の該当する章を事前に読み理解を深めておくこと。 また簡単な家具のモデル制作を通じて理解度を確認すること。 また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。		
	(特記事項) 特になし		
関連科目	室内意匠論、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。室内意匠論を理解しさらに発展させ、一部実習を含めて進めていく。		
成績評価	評価ポイント：授業態度（20%）、レポート（50%）およびモデル〈椅子モデル1/5〉（30%）によって評価する。		

科目名	工芸とデザイン	配当年次	1年次
科目英語名	Applied Arts and Design	科目区分	芸術科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	開講期	後期
担当教員	東 俊一郎（教授）		
到達目標	京都における工芸（民藝を含む）に関連する建築のフィールドワークを通して、空間的視点から工芸とデザインを考察できる。さらに、空間に用いられる素材の観察・分析を踏まえ、新たな文化的価値の創出につながる提案ができる。 この科目はDPM-2に該当する。		
授業概要	本授業では、まず京都における工芸の潮流に着目し、その歴史的背景と基礎的知識を習得する。次いで、実空間における体験と素材の観察を通して、心理と素材（色彩・光の陰影等）との関係およびその活用手法を整理・分析する。これらを踏まえ、工芸を建築的視点から批評的に評価する力を養う。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 工芸・民藝の建築史的文脈 第3回 工芸・民藝の思想と空間観 第4回 フィールドワーク①（対象建築の体験・観察） 第5回 フィールドワーク②（素材・構法の記録） 第6回 フィールドワーク③（印象分析と整理） 第7回 感情マッピング演習（印象・色彩・素材の整理） 第8回 マテリアル分析（質感・光の反射・色彩・温度感） 第9回 デジタルファブリケーションによるマテリアル制作① 第10回 デジタルファブリケーションによるマテリアル制作② 第11回 デジタルファブリケーションによるマテリアル制作③ 第12回 中間発表・講評 第13回 演習課題①（建築的要素への展開） 第14回 演習課題②（建築的要素への展開） 第15回 最終講評		
教科書	なし。		
参考書 参考資料	柳宗悦『工藝の道』講談社学術文庫、河井寛次郎『火の誓い』講談社学術文庫		
予習・復習指導	特になし		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	特になし		
履修上の注意	参考文献等で展覧会、作品、作家などの相互関係を理解しておくこと。		
成績評価	授業ごとのレポート、および演習課題提出		

科目名	美術工芸特論	配当年次	2年次
科目英語名	Theory of Art and Craft , Adv.	科目区分	芸術科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	岡 達也（准教授）		
到達目標	「美術工芸」とその周囲にある領域の基礎概念とその形成過程について理解を深める。 この科目は、DPM-3に該当する。		
授業概要	本講義では、おもに日本の「近代」という時代を対象として、その過程のなかで形成されてきた「美術」「工芸」といった領域とその展開について解説する。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 「美術」と「工芸」の概念形成① 第3回 「美術」と「工芸」の概念形成② 第4回 工芸と博覧会① 第5回 工芸と博覧会② 第6回 「美術」「工芸」と博物館 ① 第7回 「美術」「工芸」と博物館② 第8回 「美術」「工芸」と教育① 第9回 「美術」「工芸」と教育 ② 第10回 工芸と伝統① 第11回 工芸と伝統② 第12回 工芸と民芸 第13回 工芸と現代① 第14回 工芸と現代② 第15回 総括		
教科書	特になし		
参考書 参考資料	北澤憲昭『眼の神殿「美術」受容史ノート』1989年、美術出版社（2010年、ブリュッケ） 佐藤道信『明治国家と近代美術』1999年、吉川弘文堂		
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回講義のテーマに関する配布文献資料を読んでおくこと。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	特になし		
履修上の注意	特になし		
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。		

科目名	伝統建築特論 I	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Traditional Architecture I, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	中西 大輔（講師）		
到達目標	日本の各時代の伝統建築の特徴の要点について、実例を通して、それらを成立させた文化的・社会的・技術的背景を把握することで、伝統建築の普遍性と変化の原理を理解するとともに、日本の伝統建築の本質を読み解く能力を養う。 この科目は、DPM-1、DPM-3に該当する。		
授業概要	建築設計に必要とされる素養のひとつである歴史的建造物を取り上げる。講義や論文講読などを通して、古代から近代にかけての代表的な様式の変遷やその代表的遺構、工法、素材、意匠の特徴などに関する知識を習得する。建築史も歴史学の一環であるため、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築を様々な面（思想、価値観、社会制度、工法、材料、施工等）から捉えて、伝統建築における高度な理論の構築を目指す。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 伝統建築の基礎① 時代区分 建築種別 構造 度量衡 第2回 伝統建築の基礎② 古図面と歴史資料 第3回 伝統建築の材料と構法① 木材と木工事 第4回 伝統建築の材料と構法② 瓦 檜皮・柿 茅 第5回 伝統建築の歴史① 古代 寺院建築 第6回 伝統建築の歴史② 中世1 寺院建築 第7回 伝統建築の歴史③ 中世2 神社建築 第8回 伝統建築の歴史④ 近世 寺院と神社建築 第9回 伝統建築の技術① 木割術 第10回 伝統建築の技術② 規矩術 第11回 伝統建築の設計技法① 平面図の決定法とその他の建物の相互関係 第12回 伝統建築の設計技法② 断面の決定法 第13回 伝統建築の文化財指定と調査 文化財指定と文化財行政 第14回 伝統建築の保存修理 文化財建造物の保存修理事業の歴史と課題 第15回 まとめと講評 総括と今後に向けての課題 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	文化財講座 日本の建築 1～5（第一法規） 日本建築史図録		
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の事前学習をすること。 （特記事項） 特になし		
関連科目	特になし		
履修上の注意	日頃から、伝統文化全般に関心を持つことが望ましい。		
成績評価	レポート（30点）、定期試験（70点）の合計で評価する。 60点以上を合格とする。		

科目名	伝統建築特論Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Traditional Architecture Ⅱ, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	森重 幸子（教授）・高田 光雄（教授）・北岡 慎也（講師）		
到達目標	京都の歴史的市街地の特徴的な存在である京町家および細街路（路地）が現在おかれている社会的状況に関する知識を習得し、それらの保全・継承・再生のための実践的能力を養う。 この科目は、DPM-1、DPM-3に該当する。		
授業概要	人口減少社会において、既成市街地のストックをベースとした建築・住まい・まちづくりが求められている。歴史都市においては現行の近代的な法律や社会制度と歴史的市街地の建築ストックとの間の矛盾がしばしば存在する。一方で、その都市ならではの歴史的な環境を保全継承することの重要性もますます高まっている。本授業では、京都の歴史的市街地の特徴的な存在である京町家および細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。授業時間内にフィールドワークおよび発表を行う。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・ガイダンス 第2回 京町家と社会（1）：京町家の保全と継承1 第3回 京町家と社会（2）：京町家の保全と継承2 第4回 京町家と社会（3）：京町家の改修 第5回 フィールドワーク 第6回 フィールドワーク 第7回 京町家と社会（4）：京町家をめぐる法制度1 第8回 京町家と社会（5）：京町家をめぐる法制度2 第9回 細街路の現状（1）：細街路をめぐる法制度1 第10回 フィールドワーク 第11回 フィールドワーク 第12回 細街路の現状（2）：細街路をめぐる法制度2 第13回 細街路の現状（3）：細街路とまちづくり1 第14回 細街路の現状（4）：細街路とまちづくり2 第15回 まとめとディスカッション		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	京都市発行『京都市京町家保全・継承推進計画』 京都市発行『路地保全・再生デザインガイドブック』 西村幸夫『路地からのまちづくり』学芸出版社 鳴海邦碩『都市の自由空間ー街路から広がるまちづくり』学芸出版社		
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の事前学習をすること。受講に当たっては、事前に通知・配布する関連資料やホームページ上の資料を学習しておくこと。具体的には、京都市ホームページ「京町家情報館」において公開されている「京町家の保全・再生」および「密集市街地対策」のサイト等が該当する。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	特になし		
履修上の注意	普段から市街地の状況に注意を払い、社会状況にも興味関心を持つこと。フィールドワークや発表は特に欠席しないよう注意すること。		
成績評価	受講態度（10点満点）、フィールドワークの成果レポート（30点満点）、定期試験（レポート形式）（60点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築計画特論 I	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Planning I, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	井上 晋一（教授）		
到達目標	建築家として必要な構造的・設備的知識を含めた計画的知識を修得する。 伝統建築と現代建築の共存・融合に関する知識を修得する。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。		
授業概要	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。伝統建築と現代建築の共存・融合を考慮して、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。講義で教授した内容を踏まえ各自が選定した事例を基に調査分析を行い、授業中の発表を通じて、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、高度な建築計画の能力を養う。 [建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等]		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 伝統建築と現代建築の共存・融合の可能性 第3回 住宅・居住空間（1） 第4回 住宅・居住空間（2） 第5回 教育施設（1） 第6回 教育施設（2） 第7回 文化施設（1） 第8回 文化施設（2） 第9回 医療・福祉施設（1） 第10回 医療・福祉施設（2） 第11回 観光・宿泊施設（1） 第12回 観光・宿泊施設（2） 第13回 建築のリノベーション（1） 第14回 建築のリノベーション（2） 第15回 まとめ		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	『第3版コンパクト建築設計資料集成』（丸善） 『現代建築学 建築計画2』（鹿島出版会）		
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	建築計画特論Ⅱ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	授業態度（積極性）（30点満点）、レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築計画特論Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Planning II, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	高田 光雄（教授）		
到達目標	建築計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、建築・居住空間の現代的 再編・再生を目的とした、建築・住居の計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術を習得する。（建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得）さらに、受講生各自の問題意識と学習内容を重ねた研究発表能力の体験的習得を目指す。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。		
授業概要	住居、居住空間はあらゆる建築の原点である。本講義では、こうした認識を基本として、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの建築・居住空間の構成原理を示し、併せて、建築・居住空間の現代的再編・再生を目的とした建築・住居の計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について、担当教員がこれまで行ってきた国内外の研究蓄積を最大限活用して具体的に講述する。これらを踏まえて、受講生は、学習内容に自らの問題意識を重ねた研究発表を行い、受講生相互の意見交換を行う。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要：住まい・まちづくりの実践的研究 第2回 建築計画学・住居計画学とは 第3回 第二次世界大戦後のわが国の住まい 第4回 近代建築の失敗に学ぶ 第5回 空間の機能：住むための機械 第6回 空間の組織化 第7回 中間まとめ 第8回 公共性・社会性と建築計画・住居計画 第9回 地域性・場所性と建築計画・住居計画 第10回 多様性・適合性と建築計画・住居計画 第11回 少子高齢社会と建築計画・住居計画 第12回 地球環境問題と建築計画・住居計画 第13回 受講生発表と講評 1 第14回 受講生発表と講評 2 第15回 補講および講義まとめ		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	講義において紹介する。		
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	建築計画特論Ⅰ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	研究発表（30点満点）、期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築設計特論 I	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Design I, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	山内 貴博（教授）		
到達目標	建築とランドスケープの創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、課題解決型の設計プロセスから課題発見解決策提案型の設計プロセスについて解説する。また今日の建築に大きな影響を及ぼした近現代の設計者の思想と作品を通じて、設計の理念や手法が社会的資産としてどのように展開しているかを概観する。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。		
授業概要	変化する社会にしなやかに適合すると共に、高度な専門知識と豊かな教養を発揮し、現実の課題を解決していく実践力を身に付けるための知識、技術・技能を理論的に理解することを到達目標とする。前半は主に建築空間を内部空間だけではなく外部空間から捉えながら、特に歴史的な視点に基づいて講義を展開する。後半は前半の内容を理解したうえで、現代の課題や未来のありようを見据えながら思考を深化させる。講義はスライドを使用して行い、グーグルクラスルームを利用して配布資料や案内など受講生とのやり取りを行う。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 デザインについて 第3回 テーマ設定 第4回 コンセプト 第5回 ダイアグラム 第6回 建築 第7回 中間総括 第8回 ランドスケープ 第9回 近現代における思想史と著名な作品について 第10回 プレモダン・モダニズム 第11回 ハイモダン・レイトモダン 第12回 ポストモダン・ネオモダン 第13回 批評的地域主義 第14回 クリティカル・メイキング 第15回 総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	テキスト建築意匠 平尾和洋、末包信吾他著 学芸出版社 環境デザインの歴史展望 稲次敏郎著 山海堂		
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （特記事項） 特になし		
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」+「構想力」）		
成績評価	授業への取り組み（30点満点）期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築設計特論Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Design Ⅱ, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	人見 将敏（准教授）		
到達目標	学生が自ら問題を見出し、自ら解決策を探求し新しい建築を創造して行けるための実務的な建築に関する「知識」と「技術・技能」および「デザイン力」を論理的に理解することを到達目標とする。 この科目は、DPM-1、DPM-2に該当する。		
授業概要	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半は、建築設計の実務の流れに沿って基本計画、基本設計、実施設計等を具体的なプロジェクト・実例をもとに解説する。後半は、いくつかの今日的な建築事例をとりあげ、そこに含まれる課題について考察を行う。（授業内での議論、見学、レポート提出も想定）		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 建築設計の実務について 第3回 企画業務・基本計画 第4回 基本設計・実施設計1 第5回 基本設計・実施設計2 第6回 設計工事監理・工事完成後業務1 第7回 設計工事監理・工事完成後業務2 第8回 実例見学1 第9回 実例見学2 第10回 中間総括 第11回 今日的課題の分析1 第12回 今日的課題の分析2 第13回 レポート発表1 第14回 レポート発表2 第15回 討論・総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。		
教科書	自作プリント		
参考書 参考資料	なし		
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	建築設計特論Ⅰ、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	建築は政治・経済・社会・文化等あらゆる分野と関連しているため、それらの基礎知識を習得し社会の仕組みを理解していること、また、現代的課題を書籍やニュース等から日々情報を得て、自らの課題として認識していることが重要である。さらに、豊かな生活実現、都市環境のあり方に興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街のあり方、情景等について日々発見する心掛けが重要である。		
成績評価	「小レポート＋期末レポート・発表」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。		

科目名	建築デザイン特別演習 I	配当年次	1年次
科目英語名	Seminar of Architectural Design I, Adv.	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	6単位
授業形態	演習	開講期	前期
担当教員	山内 貴博（教授）、授業担当教員		
到達目標	機能面、構造面、建築構法、環境デザインなどと連動した、高度な設計内容の構築を目標とする（一級建築士資格を有する教員からのアドバイスを受けながらスタディを進める）。この科目は、DPM-1、DPM-2、DPM-3、DPM-4に該当する。		
授業概要	建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築デザインの持つ創作的な視界について思考を深めていく。本演習は大学院所属の教員が各々課題を提示して選択する方式とする。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、課題説明 第2回 与件把握 第3回 課題分析・関連法規分析 第4回 関連事項研究1 第5回 関連事項研究2 第6回 計画案作成1 第7回 計画案作成2 第8回 スタディ模型作成1 第9回 スタディ模型作成2・中間報告 第10回 詳細検討・全体計画1 第11回 詳細検討・全体計画2 第12回 詳細検討・全体計画3 第13回 図面作成1 第14回 図面作成2 第15回 講評 ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	特になし		
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 （特記事項） 特になし		
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ，建築設計特論Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	提出作品の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。		

科目名	建築デザイン特別演習Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Seminar of Architectural DesignⅡ, Adv.	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	6単位
授業形態	演習	開講期	後期
担当教員	種村 俊昭（特任教授）、授業担当教員		
到達目標	都市施設を題材とし、サステナブル・デザインの視点から、機能面、構造面、エネルギー面における実現性や合理性の模索、デザインを裏付ける客観データの収集、都市環境との適合性などを現地サーベ이를ベースとしながら、高度な設計内容の構築を目標とする。 この科目は、DPM-1、DPM-2、DPM-3、DPM-4に該当する。		
授業概要	都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築デザインの持つ創作的な視界について思考を深めていく。 本演習は大学院所属の教員が各々課題を提示して選択する方式とする。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 スタディ(与件把握) 第3回 スタディ(与件把握) 第4回 スタディ(与件把握) 第5回 スタディ(与件把握) 第6回 スタディ(デザイン) 第7回 スタディ(デザイン) 第8回 スタディ(デザイン) 第9回 スタディ(デザイン) 第10回 スタディ(詳細検討・全体計画) 第11回 スタディ(詳細検討・全体計画) 第12回 スタディ(詳細検討・全体計画) 第13回 スタディ(プレゼンテーション) 第14回 スタディ(プレゼンテーション) 第15回 最終審査(講評会)		
教科書	特になし		
参考書 参考資料	「都市計画とまちづくりがわかる本」伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著 彰国社 演習時間の中で配布		
予習・復習指導	一講義(2コマ)に対して3時間の予習復習をすること。 (特記事項) 設計課題と類似する事例(複数)を日頃見学、視察し分析すること。		
関連科目	建築企画論、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	建築は政治・経済・社会・思想・文化などあらゆる分野と関連しているため、それらの基礎知識を習得し、社会の仕組みを理解していること、現代の問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識することが重要である。また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、色々な場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景(風景)などについて日々発見する心掛けが重要である。(観察力+構想力)		
成績評価	提出作品の内容から総合評価を行う。		

科目名	建築企画論	配当年次	1年次
科目英語名	Architectural Programming	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	開講期	後期
担当教員	生川 慶一郎（教授）、高田 光雄（教授）、杉本 直子（特任准教授）		
到達目標	京都の都市格を形づくる京町家について、地域や歴史との関わりを理解し、その保全・継承に資する企画や事業の可能性を探る。また、具体的な大型京町家を対象としたプロジェクトを通じて、実践的な企画力とマネジメント能力の修得を到達目標とする。 ① 京町家減少の実態およびその社会的背景に対する理解 ② 京町家の生活文化を含めた文化的価値に対する理解 ③ 大型京町家を保全・継承するにあたっての課題の把握 ④ 具体的な京町家を対象とした実践的な取組提案とその発信 この科目は、DPM-2、DPM-4に該当する。		
授業概要	減少の一途を辿っている京町家を背景に、その生活文化も含めた継承とその現代的価値の重要性を学ぶ建築企画特別演習とする。とくに課題となる大型京町家の保全と活用をテーマに、建築基準法や関連政策、金融、税制との関わりを理解しつつ、持続可能な運営を可能とする体制や仕組みづくりを検討する。実際の大型町家である七条仏所跡を対象にフィールドワークと調査を行い、多様なステークホルダーとの協働を想定した具体的な企画提案を作成する。また、その一部を「町家の日」において公開・実践し、社会への発信を通じて企画の妥当性や運営上の課題を検証する。これらのプロセスを通じ、歴史的建築ストックを活かした地域再生や文化継承に主体的に関わるための実践的な企画力とマネジメント能力を養う。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 課題説明（生川）＋七条仏所跡町家の見学＋町家所有者との懇談、勉強会（歴史、くらし、家具・民具・什器等について） 第2回 京町家の現代的価値（講義：高田） 第3回 大型京町家に受け継がれる生活文化（講義：杉本）WS①（テーマ立案） 第4回 京町家の保全・継承に係るまちづくり（講義：生川）WS②（テーマ確定＋調査計画立案） 第5回 景観重要建造物の登録について（ゲスト：古材文化の会 笠原氏） 第6回 WS③（調査計画確定＋フィールドワーク） 第7回 大型京町家の活用スキーム（七条町家含む）（講義：信籐氏） 第8回 WS④（フィールドワーク） 第9回 東本願寺との関わりについて（ゲスト：東本願寺改修担当 奥野氏） 第10回 WS⑤（展示計画立案＋フィールドワーク） 第11回 崇仁地区のまちづくり（ゲスト：京都市）＋WS⑥（展示計画確定） 第12回 展示制作⑦ 第13回 展示制作⑧ 第14回 成果発表 第15回 町家の日（3/8）のオープンdayにて成果発表		
教科書	なし（配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用）		
参考書 参考資料	講義において紹介する。		
予習・復習指導	一演習（2コマ）に対して、3時間程度の予習復習をすること。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	京町家再生論		
履修上の注意	原則、京都市下京区七条高倉角に建つ七条仏所跡町家にて開催（京都府京都市下京区七条通高倉材木町485）		
成績評価	ゲストスピーカーのテーマに関するレポート（3つの中から1つを選択：50点満点）と、七条仏所跡町家の活用提案（パネル・模型等の展示物の作成：50点満点）の合計点		

科目名	西洋都市建築デザイン論	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of urban design and architecture in Europe	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	白鳥 洋子（准教授）		
到達目標	ヨーロッパの現代建築、近代建築の知識を深め、古代から続く建築の集積と都市の積層について理解する。異なる時代の建築に新鮮さを見出し、都市の歴史的な文脈と現在の諸課題を踏まえながら、都市と建築の関係性をデザインの観点から論じる力を身につける。 この科目は、DPM-1、DPM-3に相当する。		
授業概要	ヨーロッパを中心に様々な時代の都市と建築を例に取り、両者の関係性について論考する。世界の素晴らしい建築物は美しい都市とともに存在し、両者は互いに高め合う関係にある。古代では都市計画と建築、中世では有機的な都市景観と建築について論じ、都市の変遷と建築の関係性を捉える。さらに、歴史的都市における近代現代建築のあり方や近代の都市計画と建築について論考を深める。異なる時代の建築と都市について横断的に認識を深め、伝統建築と現代建築の共存・融合のデザイン、異なる時代の建築による都市のデザインについて論じる。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 歴史的都市と現代建築（1） 第2回 歴史的都市と現代建築（2） 第3回 フランス近代建築と都市デザイン 第4回 フランスの近代建築の源流と展開 第5回 テーマ発表 第6回 パリの都市の変遷と建築 第7回 小都市の建築群 第8回 古代の都市と建築 第9回 1930年代の建築と都市デザイン 第10回 中間発表 第11回 伝統建築と現代建築の共存・融合 第12回 建築転用の源流 第13回 都市交通と建築 第14回 21世紀の建築 第15回 最終発表会 ＊講義内容、順番は進行状況に応じて調整、変更を行うことがある。		
教科書	適宜、資料を提示する。		
参考書 参考資料	適宜、講義で紹介する。		
予習・復習指導	講義（1コマ）に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。 事前学習：次回講義の該当テーマについて参考文献を読み、概要を把握しておくこと。 復習：講義を振り返り、参考資料を参照しながら、ノートを整理すること。		
	（特記事項） 特になし		
関連科目	建築、都市、デザイン、芸術、哲学に関する科目。		
履修上の注意	現在においても過去の時代においても都市は建築の集積であり、両者は人々に営みやその文化を内包する器である。歴史的都市における各時代の建築のデザインについて考えを深め、伝統と創造について考える契機にしてほしい。		
成績評価	研究発表（40%）、提出物（40%）、受講姿勢（20%）により評価を行う。		

科目名	日本都市史	配当年次	1年次																																													
科目英語名	Japanese Urban History	科目区分	専門研究科目																																													
科目コード	－	履修コード	－																																													
必修選択区分	選択	単位数	2単位																																													
授業形態	講義	開講期	前期																																													
担当教員	砂川 晴彦（講師）																																															
到達目標	本授業の到達目標は次のような点である。 ・都市史を単なる年代記ではなく、都市を自ら分析する学問として理解する。 ・都市をめぐる日本の都市における権力・経済・文化・環境・身体経験を歴史的に把握する。 ・都市史をめぐる主要理論および史料の用い方を学び、その思考法を分析の方法として活用できるようにする。 ・自ら都市史的問いを設定し、研究または設計の対象となる土地の読み解きに接続できるようにする。 ・当科目は、DPM-1、DPM-3に該当する。																																															
授業概要	本授業は主に次の内容になる。 ・建築学ならびに社会学・人類学・地理学の交差点として蓄積してきた都市史の学問的意義と、その中心をなす「問い」の射程を学ぶ。 ・都市の歴史をめぐる15の「問い」に沿って講義を展開する。 ・各回では関連する理論書を取り上げ、その方法論と問題設定を検討する。 ・講義では具体的事例として、京都・大阪・江戸を対象とした「三都論」を軸に議論を行う。 ・あわせて地方都市や集落も適宜取り上げ、大都市とは異なる多様性と地域性についての理解を深める。 ・本授業では「都市史レポート」を作成する。講義内容を踏まえ、各自が関心のある土地を一つ設定し、複数の都市史的「問い」を適用しながら史料を読み解く。簡単なリサーチに基づき、その土地の歴史を一つのストーリーとして構成することを試みる。																																															
授業計画 授業内容	全15回 全15回の授業計画は下記のように15の「問い」に沿って進行する。 〔各回のテーマと「問い」〕 <table><tr><td>第1回</td><td>都市とは何か</td><td>建築（物質）か社会（慣行）かどちらが都市を規定するか</td></tr><tr><td>第2回</td><td>都市の起源</td><td>都市の始まりは理念が先に存在するか</td></tr><tr><td>第3回</td><td>計画都市と自生都市</td><td>計画都市は崩壊するか</td></tr><tr><td>第4回</td><td>権力と都市空間</td><td>権力は都市空間にどう刻まれるか</td></tr><tr><td>第5回</td><td>宗教と都市構造</td><td>宗教はどのようにして都市の核になったか</td></tr><tr><td>第6回</td><td>市場・海運・ネットワーク</td><td>都市は単体で存在できるか</td></tr><tr><td>第7回</td><td>身分・周縁・空間分節</td><td>都市空間に埋め込まれる差別と排除とは</td></tr><tr><td>第8回</td><td>日常生活と祭礼</td><td>人の共同性はどのように空間化されているか</td></tr><tr><td>第9回</td><td>災害と都市集落</td><td>危機が都市構造を変えらるかは</td></tr><tr><td>第10回</td><td>近代化と空間の再編</td><td>近代は近世以前をどのように組み替えたか</td></tr><tr><td>第11回</td><td>植民地都市</td><td>中心・周縁の再生産と近代の影とは</td></tr><tr><td>第12回</td><td>記憶・保存・表象</td><td>都市の過去をどう語るか</td></tr><tr><td>第13回</td><td>消費・演出される都市</td><td>創られる「本物らしさ」とは</td></tr><tr><td>第14回</td><td>都市の周縁と抵抗</td><td>都市空間をめぐる闘争とは</td></tr><tr><td>第15回</td><td>都市の歴史研究の将来</td><td>学際研究としての都市史とは</td></tr></table> 以上のテーマで都市史の「問い」の思考について講義を進めつつ、「都市史レポート」作成のための解説、史料収集、分析作業、進捗報告を適宜実施し、最終講義で発表会（講評）を行う予定である。			第1回	都市とは何か	建築（物質）か社会（慣行）かどちらが都市を規定するか	第2回	都市の起源	都市の始まりは理念が先に存在するか	第3回	計画都市と自生都市	計画都市は崩壊するか	第4回	権力と都市空間	権力は都市空間にどう刻まれるか	第5回	宗教と都市構造	宗教はどのようにして都市の核になったか	第6回	市場・海運・ネットワーク	都市は単体で存在できるか	第7回	身分・周縁・空間分節	都市空間に埋め込まれる差別と排除とは	第8回	日常生活と祭礼	人の共同性はどのように空間化されているか	第9回	災害と都市集落	危機が都市構造を変えらるかは	第10回	近代化と空間の再編	近代は近世以前をどのように組み替えたか	第11回	植民地都市	中心・周縁の再生産と近代の影とは	第12回	記憶・保存・表象	都市の過去をどう語るか	第13回	消費・演出される都市	創られる「本物らしさ」とは	第14回	都市の周縁と抵抗	都市空間をめぐる闘争とは	第15回	都市の歴史研究の将来	学際研究としての都市史とは
第1回	都市とは何か	建築（物質）か社会（慣行）かどちらが都市を規定するか																																														
第2回	都市の起源	都市の始まりは理念が先に存在するか																																														
第3回	計画都市と自生都市	計画都市は崩壊するか																																														
第4回	権力と都市空間	権力は都市空間にどう刻まれるか																																														
第5回	宗教と都市構造	宗教はどのようにして都市の核になったか																																														
第6回	市場・海運・ネットワーク	都市は単体で存在できるか																																														
第7回	身分・周縁・空間分節	都市空間に埋め込まれる差別と排除とは																																														
第8回	日常生活と祭礼	人の共同性はどのように空間化されているか																																														
第9回	災害と都市集落	危機が都市構造を変えらるかは																																														
第10回	近代化と空間の再編	近代は近世以前をどのように組み替えたか																																														
第11回	植民地都市	中心・周縁の再生産と近代の影とは																																														
第12回	記憶・保存・表象	都市の過去をどう語るか																																														
第13回	消費・演出される都市	創られる「本物らしさ」とは																																														
第14回	都市の周縁と抵抗	都市空間をめぐる闘争とは																																														
第15回	都市の歴史研究の将来	学際研究としての都市史とは																																														
教科書	適宜資料を配布する。																																															
参考書 参考資料	日本： 宮本雅明、高橋康夫 他編『図集日本都市史』東京大学出版会1993〔解説：日本都市史の素材集として〕 理論・手法： ルイス・マンフォード『歴史の都市 明日の都市』〔解説：都市史研究の基準点〕 アンリ・ルフェーブル『空間の生産』〔解説：都市を批判的に読む理論書〕 陣内秀信『東京の空間人類学』ちくま学芸文庫1992〔解説：東京に限らず日本の都市を読む実践書〕																																															
予習・復習指導	レポート作成に取り組む。そのレポートの作成過程で、関連する文献・史料を探し、読み考える作業に取り組むこと。																																															
	（特記事項） 特になし																																															
関連科目	特になし																																															
履修上の注意	毎回、PC、タブレットほかを用意し、配布資料の閲覧、レポートの作成が可能なようにすること。																																															
成績評価	授業中に進行してゆくレポートに対して、その作成過程と最終提出物の内容で評価する。																																															

科目名	居住空間論	配当年次	1年次
科目英語名	Residential Space Studies	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	根来 宏典（准教授）		
到達目標	居住空間におけるデザインのあり方を多角的なアプローチから概観することで、暮らしの豊かさとは何かを問う。それらが生み出されるプロセスを分析・考察する力を身に付け、自身の設計手法に活かすことを目標とする。 この科目は、DPM-1、DPM-2 に該当する。		
授業概要	居住空間に関する設計が上手くなるための考え方を考える授業である。住宅の設計は、建築の基本でありながら、多様性に富み、奥が深い。本講義は単体としての住居をはじめ、職住一体、集まって住む、子ども・高齢者・福祉施設をも対象としている。これら空間の設計に対し、多角的な切り口からのアプローチを試みる。豊富な実例を用いた分析・考察によって講義は展開する。その結果として、学生自身の思考力を刺激し、柔軟な発想力を培う。学部時代に習得したことを発展させ、思考のリアリティをより深める機会としてほしい。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 カタチからの考えを深める 第2回 外構からの考えを深める 第3回 断面からの考えを深める 第4回 生活動線からの考えを深める 第5回 屋根や小屋組からの考えを深める 第6回 キッチンや水廻りからの考えを深める 第7回 環境配慮からの考えを深める 第8回 模型からの考えを深める 第9回 ダイアグラムからの考えを深める 第10回 景観からの考えを深める 第11回 素材からの考えを深める 第12回 数寄からの考えを深める 第13回 旅や読書からの考えを深める 第14回 施主や社会の要望からの考えを深める 第15回 総括		
教科書	住居計画入門 住まいをめぐる文化・歴史・空間（学芸出版社）		
参考書 参考資料	講義において紹介する		
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習をすること （特記事項） 特になし		
関連科目	建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	授業態度および期末レポートによって総合的に評価する		

科目名	建築学特別研究Ⅰ	配当年次	2年次
科目英語名	Research of Architectural Design I, Adv.	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	演習	開講期	前期
担当教員	高田 光雄（教授）、研究指導有資格教員		
到達目標	取り組むべき研究課題を見出し、仮説の実証に必要な調査・分析を行えること。また、推敲を重ね論文もしくは制作物を構築し、その成果をプレゼンテーションできること。 この科目は、DPM-1、DPM-2、DPM-3、DPM-4に該当する。		
授業概要	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員及び副指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。なお、修士研究の可否判定は、あらかじめ定められた指導教員以外の教員が主査を務め、副査2名との協議により行われる。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。		
授業計画 授業内容	研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。 全15回 第1回 ガイダンス 研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ 第2回 研究課題の企画1 既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類 第3回 研究課題の企画2 資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討 第4回 研究課題の企画3 研究課題に関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討 第5回 研究課題の企画4 研究課題の検討と策定 第6回 研究課題の立案1 研究計画の検討と策定 第7回 研究課題の立案2 研究方法の検討と策定 第8回 研究課題の立案3 調査・実験等の実施 第9回 研究課題の立案4 調査・実験等の実施 第10回 中間報告 中間報告と討議 第11回 研究課題の展開1 調査・実験等の結果に対する収集整理 第12回 研究課題の展開2 調査・実験等の結果に対する収集整理 第13回 研究課題の展開3 追加の調査・実験等の検討 第14回 研究課題の展開4 追加の調査・実験等の実施 第15回 最終報告 最終結果の報告と検討		
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。		
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。		
予習・復習指導	ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。		
	(特記事項) 特になし		
関連科目	建築学特別研究Ⅱ		
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。		
成績評価	建築学特別研究Ⅰの中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。		

科目名	建築学特別研究Ⅱ	配当年次	2年次
科目英語名	Research of Architectural Design Ⅱ, Adv.	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	演習	開講期	後期
担当教員	高田 光雄（教授）、研究指導有資格教員		
到達目標	建築学特別研究Ⅰの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士研究としてまとめること。 この科目は、DPM-1、DPM-2、DPM-3、DPM-4に該当する。		
授業概要	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員及び副指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。なお、修士研究の可否判定は、あらかじめ定められた指導教員以外の教員が主査を務め、副査2名との協議により行われる。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。		
授業計画 授業内容	研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。 全第15回 第1回 ガイダンス 研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ 第2回 研究課題の継続1 レビューを踏まえた研究課題の検討と確認 第3回 研究課題の継続2 作業の実施と結果の検討 第4回 研究課題の継続3 作業の実施と結果の検討 第5回 研究課題の継続4 作業の実施と結果の検討 第6回 研究課題の発展1 研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述 第7回 研究課題の発展2 研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述 第8回 研究課題の発展3 調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示 第9回 研究課題の発展4 調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示 第10回 中間報告 中間報告と討議 第11回 研究課題のまとめ1 研究成果物の構成について討議 第12回 研究課題のまとめ2 研究成果物の内容について討議 第13回 研究課題のまとめ3 最終成果品の発表、討議 第14回 研究課題のまとめ4 最終成果品の修正作業、展示 第15回 最終報告 講評会		
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。		
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。		
予習・復習指導	特になし		
	（特記事項） ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。		
関連科目	建築学特別研究Ⅰ		
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。		
成績評価	建築学特別研究Ⅱの中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。なお、学位授与の条件となる修士研究の評価の基準等は別に定められ、「履修の手引き」に詳しく表記されている。		